

## 権現神社

権現神社は口永良部島の東部に位置する湯向温泉の神を祀っています。この神社の年代は不明ですが、江戸時代（1603－1867）の間に建てられたと言われています。この温泉の起源にまつわる言い伝えには諸説あります。ある物語によると、一人の狩人が鹿を追っている間に道に迷ってしまったところ、鳥の鳴き声を聞いたのだそうです。谷をのぞき込むと、池に一羽の白い鶏が見えました。彼はすぐに弓で矢を放ち、その鶏を射止めました。しかし、その鶏の姿は消え、池から白い煙がもうもうと噴き出したのだそうです。狩人が山をはい降り、池に触れたところ、それが温泉に変わったのだそうです。その効能が知られるようになるにつれ、地元の人々はその温泉を頻繁に訪れるようになりました。

権現神社は、神道の神の化身だと信じられている、この伝説の白い鶏を祀っています。1950年代から1960年代頃に湯向の住民であった鈴木太郎氏によって描かれた、雄と雌の白い鶏の絵がこの神社に奉納されています。権現神社はまた、温泉の薬効に関連して、医薬の神である少名毘古那神を祀っています。